

令和8年度

環境科学セミナー

第一部 基調講演

「古代DNA研究から みた縄文人と彼らを 取り巻く環境」

東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻 教授

太田 博樹 氏

Oota Hiroki

1968年生まれ。東京大学大学院理学系研究科にて博士(理学)(1997年)。マックスプランク進化人類学研究所(1999年～)およびイェール大学医学部(2001年～)での博士研究員を経て、2005年から東京大学大学院新領域創成科学研究科の助教。2010年、北里大学医学部にて准教授。2019年より現職。専門は人類集団遺伝学、分子人類進化学、ゲノム人類学。主な著書:「古代ゲノムから見たサピエンス史(吉川弘文館)」(2023)、「遺伝人類学入門ーチンギス・ハンのDNAは何を語るか(ちくま新書)」(2018)、「ヒトは病気とともに進化した(勁草書房)」(2013)長谷川 眞理子と共編など。

無料

単位認定講座



この講座は、あおもり県民カレッジの単位として認められます。

1回につき3単位

第二部 成果報告

●「トリチウムが生物へ与える影響を調べています」

環境科学技術研究所 トリチウム研究センター 副主任研究員 高井 大策

●「六ヶ所村沿岸のトリチウム ～これまでとこれから～」

日本海洋科学振興財団 むつ海洋研究所 海洋研究部 主任研究員 小藤 久毅

日時

令和8年

9月15日(火)

13時30分～16時10分(開場13時)

第1部 基調講演(13:35～14:40)

第2部 成果報告(14:45～16:05)

会場

六ヶ所村文化交流プラザ スワニー
大会議室1～4

青森県上北郡六ヶ所村尾駸野附1-8
TEL 0175-72-3400

お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のはがきに住所、氏名等を記入して郵送またはFAXでお申し込みください。電子メール、ホームページからのお申し込みも可能です。9月11日までにお申し込みください。(当日参加も可能です。)



お申し込み・お問い合わせ:公益財団法人 環境科学技術研究所 共創センター

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-71-1270

〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村尾駸家ノ前 1-7 [ホームページ](https://www.ies.or.jp/) [電子メール](mailto:kanken@ies.or.jp) kanken@ies.or.jp

主催: 青森県 (公財)環境科学技術研究所 (公財)日本海洋科学振興財団

FAX 送信の場合 0175-71-1270へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290



上北郡六ヶ所村
尾駸家ノ前一番七

差出有効期間
令和8年9月14日
(切手不要)

公益財団法人
環境科学技術研究所
共創センター 共創推進課 行

環境科学セミナー (六ヶ所会場)

お名前	フリガナ	参加人数	人
ご住所	〒		
電話番号	()		

放射線に関する事など聞きたいことをお寄せください。



(郵便用紙)

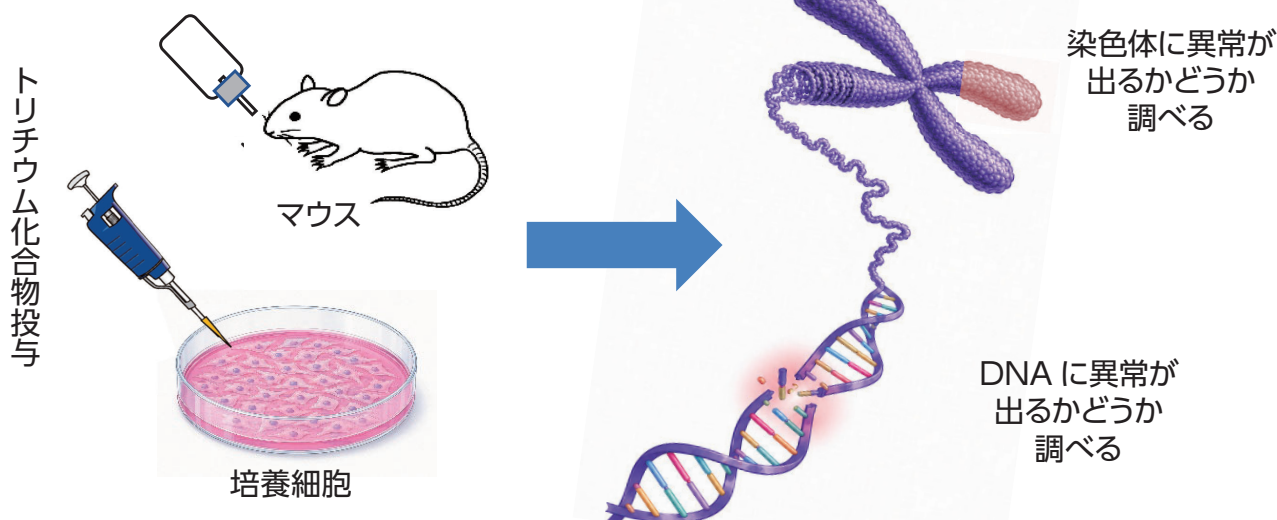
排出放射性物質影響調査（青森県委託事業）の紹介

トリチウム化合物が生物に及ぼす影響を調べています

環境科学技術研究所(六ヶ所村)では、トリチウム研究センターが中心となって、トリチウムを含む化合物を体内に取り込んだときに、からだにどのような影響があるのかを明らかにするための調査研究を進めています。

トリチウムは水素の仲間で、自然界や私たちのからだにもごくわずかに存在しています。トリチウムは弱い放射線を出しています。この放射線は体外からあびてもほとんど影響がありませんが、水や食べ物として体内に取り込まれると、内部被ばくによってからだの細胞に影響を与える可能性があります。

そこで、細胞やマウスにトリチウム化合物を取り込ませ、細胞の設計図であるDNAや染色体に異常が生じるかどうか、異常が生じる場合には頻度がどの程度なのかを詳しく調べています。さらに、当研究所が蓄積してきたガンマ線による外部被ばく影響のデータと比較することで、トリチウム化合物による内部被ばく特有の影響があるのかどうかを明らかにしようとしています。



調査の内容や成果等はホームページ (<https://www.aomori-hb.jp/>) に掲載されています。